



更女しまね

第1号 2014.12.1

島根県更生保護女性連盟 松江保護観察所内 TEL (0852) 21-3767



国宝 出雲大社 本殿

会報「更女しまね」の発刊によせて

会長 鐘 築 章 恵

平成26年も残すところ1ヶ月たらずとなりました。会員の皆様にはお変わりなくお過ごしのことと思います。

県連盟会長として会員の皆様に支えられ、2年が経過しています。その間「平成25年度組織強化研修」や「平成26年度日本更生保護女性連盟評議委員会」へ出席するなど、全国各連盟の活動状況をお聞きすることができました。そこで、研修会の開催、矯正施設への訪問、子どもへの支援活動等会員相互の連携と研鑽に努めるとともに、機関誌の発行により活動のPRと情報交換もおこなわれています。

全国の活動状況を県理事会において報告するなかで、県更女も機関誌を発行することにいたしました。

機関誌発行に当たっては、次の3点を大きな柱といたしました。

1つ目は、県下28地域の皆様と連携を一層強化し、情報交換を深めることです。

2つ目は、県更女の大きな特徴である「愛の図書寄贈活動」(今年で54回目)のPRの場を強化することです。

これは、先輩諸姉のご努力で昭和36年3月に組織を結成後まもなく始まっています。集めた浄財で矯正施設や各

市町村の保育所、幼稚園、小中学校へ図書券を贈呈していますが、2,750名弱の会員みんなが図書により、子どもたちや心ならずも罪を犯した人たちが「感動する心」や「人を思いやる心」を培って欲しいと願っての活動です。

矯正施設で読書を通して立ち直る様子を先般、奈良刑務所の社会性涵養プログラム講師で作家の寮美智子氏から聞き、感動すると共にこの活動は、末永く続けなければならないとの思いを新たにしました。

3つ目は、近年様々な更生保護の新しい施策が進められており、更生保護女性会への期待も高まっています。その中であって機関誌の発行により、研修会、会議等で収集した国の動きや各県の活動状況を提供する場にもなると信じています。

今日本は、少子高齢化時代、景気は上昇傾向にあるものの就職難、凶悪犯罪の増加や低年齢化、また、児童虐待、学校でのいじめ問題等多くの問題を抱えています。日本更生保護女性連盟50周年記念の集いで「支えあい、共に耀きその先へ」のすばらしい目標が掲げられました。私たちは、この目標に向け、健康には十分留意しつつ、特に子どもたちが健やかに過ごせる明るい社会の実現に努力してまいろうではありませんか。さらなるご協力よろしくお願い申し上げます。



次の世代に 伝えたいこと

松江保護観察所長 中村 明英

島根県更生保護女性連盟の機関誌「更女しまね」の発刊をお祝い申し上げます。

さて、更生保護女性会の活動は、全国的に見れば明治時代には始まっていたようですが、島根県では、昭和33年7月、益田市更生保護婦人会の名称で初めて組織化され、翌年から県内各地で組織化が進み、現在では県内28の地区で結成され、会員も2,700余名を数える大きな団体になりました。

島根県更生保護女性連盟は、それら地区女性会をまとめるため、昭和36年3月に結成されましたので、女性連盟も結成54年目になる歴史のある団体です。

更生保護女性会の活動は、女性としての深い人間愛と社会奉仕の精神をもって、不幸にして罪を犯した人たちの更生の援助や犯罪予防活動を通して、安全で安心して暮らせる地域社会の建設と福祉の向上を目標とした活動です。これら活動に従事されてきた女性会の皆様方には、あらためて、深く敬意を表しますとともに、お礼を申し上げます。

県内28地区の女性会では、愛の募金活動による図書贈呈運動を中心に、地域の実情に応じた様々な活動を行っています。それら活動が青少年の健全育成にどれほど寄与してきたか計り知れないものがあります。

ちなみに、平成25年の犯罪発生件数は、島根県が全国で一番少なかったそうです。島根県では昨年、出雲大社において60年振りに大遷宮が行われたこともあって、全国から数百万人もの観光客が押し寄せました。人の集まるところに犯罪は付きものと言われますが、島根県には当てはまらなかったようです。出雲大社の御利益もさることながら、犯罪や非行をしたひとをも温かい心で受け止める県民の心が犯罪を減らせているのでしょう。

島根県更生保護女性連盟の皆様には、永く出雲大社を大切にしてきたように、今後もこの温かい心を次の世代に伝えていただくようお願い申し上げ、お祝いの言葉に代えさせていただきます。



「更女しまね」 発刊を祝して

島根県知事 溝口 善兵衛

島根県更生保護女性連盟機関誌「更女しまね」が創刊されますことを、心からお慶び申し上げます。

皆様方には、日頃から、それぞれの地域において、更生保護や青少年の非行防止・健全育成、地域の子育て支援など各種活動を献身的に実践されており、深く敬意を表する次第であります。

また、「愛の図書」寄贈運動におきましては、矯正施設や更生保護施設のみならず、児童相談所や児童自立支援施設などに対しましても、長年にわたり多くの図書を寄贈していただいております。心から感謝申し上げます。

さて、県内の犯罪情勢を見ますと、刑法犯認知件数はピークを迎えた平成15年の9,217件以降、減少傾向にあり、昨年は4,381件と半減しております。

また、非行少年の補導者数は373人で、統計をとり始めた昭和24年以降で最少となるなど、指数的には良好に推移しております。

しかしながら、全国に目を向けますと、少年に関わる重大事件の発生、児童虐待やいじめ、有害情報の氾濫など、青少年を取り巻く環境は厳しく、島根におきましても樂觀できる状況にはありません。

こうした中、県では、安全・安心な島根の実現に向けて、関係機関・団体などとの連携強化を図りながら、県全体で青少年の健全育成や防犯施策に取り組んでおります。

島根県更生保護女性連盟の皆様方におかれましても、犯罪や非行のない明るい社会づくりに向け、今後も様々な場面において、より一層のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

終わりに、島根県更生保護女性連盟の益々のご発展と、会員の皆様のご活躍を祈念し、ご挨拶いたします。





機関誌「更女しまね」 発刊を祝して

島根県保護司連合会

会長 坂本 圭祥

この度、島根県更生保護女性連盟におかれましては、機関誌「更女しまね」を発刊されますこと、誠に意義深いことであり心からお慶び申し上げます。

島根県更生保護女性連盟は、昭和36年3月に創立され、52年の長きに渉り犯罪や非行をなくし、立ち直りを支援することを目的とし、地域に根ざした更生保護事業啓発活動をされる尊い組織でございます。その中でも特筆すべきことは、毎年行われている「愛の図書」の募金活動であります。「愛の図書」を贈呈された矯正施設・関係機関施設において、図書を通じて社会性・協調性が養われ、社会に復帰するのに必要な知識が得られていますこと、衷心より感謝申し上げます次第でございます。まさに『更生のチカラを地域に』＝どんなときでも、どんな場所でも＝「青少年に母の愛を」のスローガンのもと、地道とはいえ貢献度深大であり敬意を表します。

佐賀県の陶彩画家の草場一壽くさばかずひさ氏が書かれました「おかげさま」と云う絵本があります。この絵本は祖父と孫の会話で物語られています。ここに登場するお爺ちゃんは、公園や道端で近所の人たちから声をかけられ挨拶されると、いつも「はい!! おかげさまで…」と頭をさげて答える。孫のゆうちゃんが「ネーお爺ちゃん、おかげさまでだ〜れ?」「おかげさまかい? それはだれでもない。いかされていることへの感謝の言葉じゃよ。人が生きて行く道には、いろんなことがあるが、それでもくじけず歩いていけるのは、いろんな人たちや、見えない大きな力がしっかり支えてくれておるからじゃ。おかげさまじゃよ」と。

草場さんは「時空を越えてつながっている「いのち」は目に見えません。見えないものを感じる力を育まなければ、なぜ「いのち」が大切なものかも感じられないと思うのです…」と。社会の人たちの支え、大自然の力があって生きていけると感じる謙虚さと感謝の心の表現こそ「おかげさま」であると思います。

更生保護女性会の皆様の女性（母）特有の温かさ、優しさをもって、地域地域で「おかげさま」の心をもつ青少年を育み、人づくりのご活動にご期待し、島根県更生保護女性会の益々のご発展と、会員皆様のご健勝を祈念申し上げお祝いの言葉と致します。



「更女しまね」 発行に当たって

島根保護観察協会

理事長 古瀬 誠

島根県更生保護女性連盟がこのたび新しく「更女しまね」を発刊されますことを心からお喜び申し上げます。島根県更生保護女性連盟には平素より当協会の事業推進に対し多大なるご支援とご協力を賜り厚くお礼申し上げます次第でございます。

さて、平成25年12月に閣議決定された「世界一安全な日本」創造戦略では、国民が安全で安心して暮らせる国であると実感できる、「世界一安全な国、日本」を創り上げることを政府一丸となって目指していくこととし、その実現には犯罪や非行をした人の再発防止や社会復帰への支援が極めて重要であるとしています。

このような犯罪をした人が立ち直るには、「就労」と「住居」といった生活基盤の確保に向けた適切な支援が重要であることが明らかとなっています。犯罪や非行が生まれるのは地域社会であり、罪を償い、立ち直るのもまた地域社会に他ありません。犯罪や非行をした人が立ち直るには、本人の努力はもちろん、地域社会が彼らを受け入れ見守ることもその大きな支えとなります。近年、地域や家庭の絆の希薄化等により、社会内で適切な支援を受けられないまま再犯に至る人が少なくありません。

更生保護女性連盟は、犯罪や非行をなくし、罪を犯した人々の立ち直りを支援するボランティア団体であり、犯罪・非行予防活動、更生支援活動の他、子育て支援活動、青少年健全育成活動などあたたかな人間愛をもってだれもが人間らしく尊厳をもって生き生きと暮らせる明るい社会の実現に寄与することを目標にして様々な活動がなされています。

島根県更生保護女性連盟には、県下28組織の地区女性会があり、会員の方々が日夜にわたってそれぞれにご活躍されております。こうした日頃の地道な努力が必ずや地域社会の活性化に繋がっていくものと確信しております。

当協会といたしましても更生保護女性連盟とさらに連携を密にし、更生保護事業の伸展に寄与していきたいと考えております。



第50周年記念 “日本更生保護女性の集い”に参加して

藤井富士子

平成25年6月18日、第50周年記念“日本更生保護女性の集い”が「支え合い共に輝きその先へ」をテーマに東京で開催されました。その席上、谷垣法務大臣より191名の方たちへ感謝状が授与されました。その席に立ちながらこれは私一人のことではなく目標に向かって努力を重ねて来た仲間の方と頂けたものと心から嬉しさが込み上げて来ました。

その前日は「帝国ホテル富士の間」で祝賀会があり、皇后様をご臨席になりました。参加者は「お出迎え」「お見送り」「歓談」と役割りが分担され、歓談はお側近くで1分間お話しできるということで、全国で24名、中国は広島、山口、島根でその幸運の役に私は恵まれました。

皇后様はテレビで拝見するよりお若くて美しい方で、ほほえみながら優しく語りかけてくださり、お側に寄れ

ない方と意識しながらも夢心地でお話しをいたしました。最後に「ご苦労さま、心のままお身体大事にがんばってください」とかけてくださったお言葉は私の心の奥深く包まれて大切な宝物になりました。

鹿足更女は、地域婦人会々員が地域活動を基盤に更生保護活動の輪を拡げ、年1回合同研修会を続けています。増野虎子会長、下森華子会長とすばらしいリーダーに育てられ、力の一つに助け合った仲間たちと私は24年間副会長でがんばり、後は頼もしい後輩にバトンタッチ。今も現役でお手伝い組として、米寿を迎えこの長い更生保護人生に思わぬ花を添えていただきました。このお礼奉仕にもうひとふんばりお勤めできればと思っています。



平成25年度 日本更生保護女性連盟中央研修会に参加して

隠岐の島地区 村上 敬子

平成25年10月8日（1日目）研修の一環として日本更生保護女性連盟結成50周年記念シンポジウム テーマ“支えあい、共に輝きその先へ” 全国更女会員81名、中央研修員100名と関係者で計233名が集いました。法務省保護局長から、テーマの宣言が新たな歴史を築く決意の表れであり、再犯防止の献身的な活動は地域の安心・安全に貢献していると話があり、日本更生保護女性連盟会長狩野安氏は、6月皇后陛下のご臨席を賜った日更女50周年記念祝賀会の様子や、記念事業のテーマについて話され、国民全部と支え合って、「輝き」、「その先へ」私たちの活動を子々孫々まで伝えていくという意味があるといわれました。

基調講演は、三鷹市長 清原慶子氏でした。犯罪や非行は「地域」という社会で発生し、罪を犯し非行をした人も、改悛、反省の後に再び立ち直ろうとして、いずれ「地域」という社会に戻ってくる。地域の立ち直り支援のあり方は住居と働く場所が必要。地域の団体との連携・協働しよう。“人生はおかげさまと生きられる道であり、ありがとうと生き抜く道である”といった内容でした。

記念シンポジウムは「更生保護女性会—50年のあゆみとその先—」を考えるというテーマでした。コーディネーター 元更生保護委員会委員長、パネリスト 更生保護女性会会長、保護司会会長、保護観察所長、NPOセンター事務局スタッフの5名による記念シンポジウム開催。更女の活動内容やその役割分担、これからの課題、今後どう

進んでいけばよいか話し合わせ、質疑応答がありました。また、交流会の立食時多くの経験をさせていただきました。

2日目はファシリテーター研修、講師はきょうとNPOセンターの4名でご指導されました。5部会に分かれ、更女活動の充実に向けて地区会として取り組むことをテーマに討議しました。

◎従来の会議のやり方を変えたものでした。

☆ファシリテーターとは会議の「進行役」で、テーマや問題解決に取り組む「場」を作り、中立的な立場で「考えを引き出してはまとめ」をくりかえし、みんなで考え、みんなで決める。

☆「会議の参加者」は、会議を始める前に①メンバー同志が知り合う②体を動かす（緊張緩和）③頭動かす（考えを柔軟に）

☆グランドルール ○相手を非難しない○人の話をよく聞く○意見を否定しない○少数意見を大切に○肩書や立場を忘れる○楽しむ○無理をしない○愚痴や文句を言わない○主体的に参加する○聞く、聴く、訊く（本質の見極め）

☆話し合いに当たって。○既成概念の撤廃○理由を考える○潜在的問題を探る○みんなで決める。

テーマを更女活動の「道しるべ」とさせていただき、研修会参加のお礼を申し上げます。



一泊研修に参加して

松江地区更生保護女性会 青木 薫代

本年 1 月 21 日・22 日の 2 日間にわたり、出雲市内のホテルを会場に開催された一泊研修に約 70 名の会員の皆様と参加いたしました。

初日は中村松江保護観察所長の「これからの更生保護」の演題での講演会で始まり、続いて春雨や落雷師匠の「古典落語」と「笑いと免疫力」の講演を拝聴いたしました。笑うことで免疫細胞が増え健康に繋がるとのお話に、笑う健康生活で活動に励もうと心に誓いました。

2 日目は会員からの報告・発表がありました。中央研修報告は清原慶子三鷹市長の、更生者に対し地域として柔軟力と包容力を磨こうとのお話だったとのこと。浜田地区会長からは、地域との連携・協働活動推進地区指定を受けての活動報告がありました。特に紹介したい事例として、島根あさひ社会復帰促進センターへのふくろうぬいぐるみの謹呈、小学校 5・6 年生の通学合宿を通して心の成長を促す取り組み、県立大学生遺棄事件風化防止と市民の安全を各種団体と協力して行っている 3 点でした。

事例発表では、松江地区からは生活圏の異なる 21 支部の地域ニーズに応じて各地に根ざした活動をし、また行政・矯正施設との協力等活発な活動を伺いました。また邑智地区では犯罪は少なく、少子高齢化・過疎化から他団体との協力の中で募金活動・声かけ運動・子育て支援・愛の図書贈呈等地道な活動を続けているとのことでした。

参加者は皆熱心に充実した 2 日間を過ごし、満ち足りた気持ちで今後の活動に励もうと散会いたしました。



平成26年度 受賞おめでとうございます

平成26年 6 月 10 日に有楽町朝日ホールでおこなわれました第 51 回「日本更生保護女性の集い」では法務大臣感謝状・日本更生保護女性連盟会長表彰状が贈呈されました。また、平成26年 11 月 20 日に開催されました島根更生保護大会では、中国地方更生保護委員長感謝状・中国更生保護女性連盟会長表彰・松江保護観察所長感謝状の授与が行われました。受賞されました皆様、おめでとうございます。

平成26年度被表彰者

○法務大臣感謝状

村上 清子（大社）

○日本更生保護女性連盟会長表彰

永田 典子（美保関）、中山 道子（出雲）、
岩永 和子（大田）、野田 律子（邑智）

○中国地方更生保護委員長感謝状

26 名

○中国更生保護女性連盟会長表彰

34 名

○松江保護観察所感謝状

45 名



第 51 回

「日本更生保護女性の集い」

受賞者 村上様

永田様

岩永様

野田様

その他参加者



地域の活動



地域に根ざして 安来地区 広瀬美喜子

7月の月間に合わせ、私たちのメインである愛の募金街頭活動も昨今の猛暑により、少し途だえていましたが本年は熱中症に配慮しながら実施しました。地域の皆さんの温かい声かけと、協力により成果をあげることができました。



環境美化活動 伯太地区 川上 晴江

20数年にわたり母里地区内の県道周辺のごみ拾いを毎月継続して行い、この度環境保全の功労者として知事感謝状を受けました。不法投棄対策の一助として地元中学生と一緒にすることもあります。次代を担う子どもたちの環境美化意識の高揚を願い、よりいっそうの活動を続けて参ります。



おはなしキャラバン“つばさ”公演

松江地区 陶山 和實

歓声を上げ舞台と一体になる子どもたち、“社明運動”の一環としてプロの人形劇公演も3回目、絆を強く親子で参加。会員手作りの土産に笑顔がはじける。子育て支援、青少年の健全育成を願う松江更女の活動の一つです。親子の会話、ふえたかな。



私たちの活動 広瀬地区 昌子 薙江

私たちは会員が100人おります。全員が広瀬婦人会の会員でもあるので、両方の仕事があり大変ですが役割を決めて協力しながらやっています。毎年「愛の募金」活動を頑張っています。集まったお金は保・幼・小・中学校などに「愛の図書」として贈ります。その他、挨拶運動や本の読み聞かせをしています。



「ひとすじの灯」 東出雲地区 板倉 靖子

昭和34年に発足した東出雲地区は、48年から愛の募金活動を始め、51年からは「愛の図書」として保育園、幼稚園、小中学校へ寄贈を始め、現在もこの運動を「ひとすじの灯」として受け継ぎ、主活動としています。



保護司さん社協さんと一緒に

島根地区 團野 和子

島根地区では、会員の高齢化が進みつつも、世代交代がなかなか出来ず活動に困難な問題が沢山出て来ました。今後は保護司さんたちと連携を深めたり、社協さんに協力願い、新しい形での活動を始めようとしています。

放課後子ども広場との交流を通して

鹿島地区 中島 和子

毎年暑い夏の日に訪問します。今回は子どもたちとエコクラフトのかご作りに挑戦。苦戦の連続でしたが、手を貸しあいながら、カラフルなかごのできあがり到大歓声でした。その後体操や絵本の読み聞かせをするなどともに楽しみ、すっかり仲良くなりました。



八雲のおばさん活動

八雲地区 三島 操子

八雲には劇場があります。そこでの公演に子どもたちを招待します。一緒に笑い手をたたき、子どもたちの話に耳を傾けます。沢山の経験をとおして豊かに育って欲しいと願います。八雲のおばさんがその一助になりますように…。



地域のちからの結集

美保関地区 永田 典子

保護司、民生児童委員、学校、行政などを交えた会合と街頭活動を通して、改めて地域に根ざした活動の大切さと、ちからを結集すると大きな役割が果たせると実感しました。

平素から、地域のちからを見つける努力が必要だと話し合っています。



新生園と更女のG G交流大会

八東地区 渡部天津子

新生園は救護施設です。主にアルコール依存症の方の社会復帰を支援する施設です。利用者の方とのグラウンドゴルフ交流ですので、中には体の不自由な方も参加されます。とても上手で1位・2位です。お互い試合中にも話に花が咲き、良い雰囲気です。



保護司さんと手をつないで

玉湯地区 石川 咲子

毎年2月は保護司さんと更女会員と研修会、交流会を開催し、現状報告をしていただき親睦を深めています。“社会を明るくする運動”出発式にも共に参加して、広報活動を展開したり、地区更女会も協力を受け、いつも感謝しています。



楽しいおり紙

平田地区 大谷 民子

跳馬が一回転したよ!!カラスが口をパクパクしたよ!!恒例の福祉フェスティバルでおり紙を指導する会員たちは大奮闘。時間いっぱい満員の子どもたちで賑わい、はじける笑顔に疲れも忘れ、元気ももらいました。



「愛をみんなで」 大仁地区 白根三代子

5町（横田・仁多・木次・加茂・大東）94名で地域の青少年育成活動等に取り組んでいます。今年度は特に、会員の意識を高め絆を強め、より豊かな実践活動に生かしたいと考え、会員の集まりでは常に「愛をみんなで」を歌うことにしました。



視察研修旅行を実施して

飯石地区 倉橋 裕子

二年に一度の視察研修で今年は鳥根更生保護会へ行きました。施設・設備の整った生活環境でしたが、倉庫に背広が掛けてあるのが不思議でした。就職活動に必要な人に貸し出すとの事。釈放され社会で生活していく大変さを痛感し、支援していきたい。



わかたけ学園の園遊会で野点

宍道地区 犬山シゲコ

地区太鼓で園生全員でのオープニング。心をひとつにした鼓動に一同感激のあまり息をのむ。私たち更女は6～7名で野点の手伝いに協力するのが毎年の行事。浴衣姿の園生がお客様におもてなしする姿はとても優しくあたたかい気持を感じた。



地域の実情に即した子どもたちへの支援活動

出雲地区 伊藤 稔子

市内70校・園への約120万円の図書券贈呈の他は主に16の地域ごとの独自活動を展開している。①校園訪問（登下校見守り・読み聞かせ等）②子供会開催（雛祭月見等伝統行事・海岸河川清掃等奉仕活動・料理教室・体験学習等）③介護施設等への奉仕



標語を掲示しています。

佐田地区 和田智恵美

“社会を明るくする運動”月間に合せて毎年地区住民の方に標語を募集し、その中より11作品を選定します。その標語を地区内85カ所に会員が毎月掲示をしています。生活の指針であったり、社会を明るくする指針になったりと、地区からよこばれています。



荒神谷で家族のふれあい活動を

斐川地区 安食美和子

赤米黒米の田植え、餅つき、蓮の花見、月見の会、木の実のかざり作り、草木染めなど自然の中でわくわくいっしょに活動することにより、古代から今に続いた子育ての夢と想いを、地域を生かした支援として実施しています。



原点にかえって 大社地区 村上 清子

昨年、結成50周年という節目を終えた。これまで、更生保護施設への訪問、子育て支援のための保育用品作り、幼・保、小中学校へ図書贈呈、地域活動への協力等を続けてきたが、今後も伝統を大切にしつつ新たな歩みを進めたい。



更女の心を紡ぐ 多伎地区 柳楽 利子

更女の心を広め、深めるために、総会に併せて、識見豊かな講師を招いて研修をする。また、視野を広め、会員相互の親睦を深め、更女の心を紡ぎ、地域社会に貢献できるように、県内外に設置されている更生施設を訪問し、更生について考える。



県下に唯一「代官山動物園」の清掃

大田地区 岩永 和子

会員35名の少人数会です。少ない会員での運営・活動は大変です。今年度は子どもの育成に重点を置いています。大田市には県下に唯一「動物園」があります。昭和36年にオープンしましたので動物も少なくなり遊具も傷みました。業者による手入をボランティアで、女性会は草抜き、清掃を行っています。



子育て支援活動

邑智地区 野田 律子

手作りケーキ持参でお母さん達と子育て四方山話をいたします。更女メンバー＝子育て経験者、失敗した事良かった事等気楽に話し、お母さん達からとても良かったと好評。多くのお母さんお父さん達が楽しく集う場になるよう願っています。



保護司・更生保護女性会とのミニ集会 江津地区 田儀セツ子

お寺の本堂に保護司・更生保護女性会育成会員の18名参加の元に、少年の立直りのキッカケ、支援について活発な討論会が持てた事に、喜びを得る事が出来ました。今後の活動に繋がる集会に安堵しております。



釈放者のふくろうへの思い

浜田地区 高木禮為子

島根あさひ社会復帰促進センター釈放時、更女のふくろうのぬいぐるみが渡される。更生・心の支え・出発の記念となっていた。大切にカバンやポケットに入れお守りのように持ち歩く・思いとどまることもあるという。丁寧に心を込めて作りたい。



サマーキャンプ

益田地区 又賀 清子

益田・鎌手地区は、公民館を中心にふれあいサマーキャンプを実施、川崎市の小中学生徒10名と引率者が来られ、地区小中学生徒も参加します。食事等の世話を更女がさせていただき、ふれあいの中で輪がひろがり悦んでいます。



地域に根ざした活動

みんながハッピー！

鹿足地区 有田キミ子

保育園、小学校、高齢者の場と、会場も時には変えて毎月一回交流活動をしています。“ふるまい向上運動”の一環として、心は丸くおだやかな中にも活発な楽しい笑顔の絶えない何世代もの交流で、人との繋がりが色々な場で役立って喜ばれています。



地域に根ざして

隠岐の島地区 村上 敬子

町主催のいきいき祭りに会員手作りの食料品等を出品し、地域の方々に活動の一端をお知らせしています。収益金は、子育て支援に役立てたり、イベントジャンパーを購入したりして、会員の意識の高揚にも努めています。



更生保護女性会総会の開催

海士地区 上田 正子

“社明運動”の一環として、愛の図書募金活動の徹底を図るため、年一度の総会を開きました。会員の8割の39名が参加して募金活動の進め方について協議を深め意識統一がなされ7月中の募金に向けて運動が始まりました。



中国地方更生保護女性連盟結成50周年記念大会 中国地方更生保護女性連盟研修会に参加して

中倉 勝江

平成26年9月24・25日の両日広島県に於いて、中国地方更生保護女性連盟結成50周年記念大会並びに中国地方更生保護女性連盟研修会が開催されました。

島根県から9名出席致しました。その中の一人として不肖私が、中国地方更生保護委員会委員長感謝状を頂き身にあまる光栄に恐縮致しております。これも一重に諸先輩の皆様の御指導の賜物と感謝申し上げます。ありがとうございました。

第1日目の50周年記念大会には、日本更生保護女性連盟千葉景子会長がお出になり講演がありました。保護は行政、官の力ではどうにも出来ない。社会の皆が保護に関心をもつことが大切である。更女は社会の財産であるとお話しされました。元法務大臣をされていた千葉会長のお話を直に聞いたことに感激致しました。

第2日目の研修会には、鳥取、島根、山口県の代表の方が活動発表をされました。島根は斐川地区の会長江角佳子さんが発表されました。平成25年度“地域との連携・協働活動推進地区”として日更女連盟より選定されました。鳥取も山口も島根も、地域の活動に更女があらゆる方法でかわりながら活動に工夫されているところがすばらしかったと思いました。特に斐川地区の活動は、地域の特性を十分に利用した活動で感心致しました。今回の研修会に参加し、良い体験をさせて頂きました事にお礼申し上げます。



中国地方更生保護女性連盟結成50周年記念式典
講演 日本更生保護女性連盟会長 千葉景子氏

中国地方更生保護女性連盟結成50周年記念大会



中国地方更生保護女性連盟結成50周年記念式典 表彰式

編集後記

この度会員の皆様へ島根県更生保護女性連盟の活動を報告し、会員相互の情報交換の場となるよう広報誌を作成することになりました。

理事会で『更女しまね』とし、創刊号を平成26年12月発行の運びとなりました。会員の地区活動や、全国の活動状況を感じ取っていただけるよう検討を重ね編集いたしました。

創刊にあたり松江保護観察所所長様、島根県知事様、島根県保護司会連合会会長様、島根保護観察協会理事長様には快く玉稿を賜り、厚くお礼申し上げます。

折しも中国地方更生保護女性連盟結成50周年の年に『更女しまね』を創刊することができました。

更女活動の充実とともに本誌が末永く続くことを願っております。



編集委員長 江角 佳子

編集委員 鐘築 章恵 野津イマ子 村上 清子
高木禮為子 有田キミ子

題 字 鐘築 章恵